

## 第7回 多摩市総合計画審議会会議録（要点録）

■開催日時 令和4年12月22日（木） 午後7時～午後9時

■開催場所 多摩市役所 本庁舎3階 特別会議室

■出席委員 14名（50音順）

朝日 ちさと会長、有賀 敏典委員、岩佐 玲子委員、小笠原 廣樹委員、尾中 信夫委員、  
勝田 淳二委員、紀 初子委員、澤登 早苗委員、高木 康裕委員、春田 祐子委員、  
福井 博文委員、細野 佳苗委員、松野 茂樹委員、鷺尾 和彦委員

■欠席委員 1名（50音順）

宮本 太郎副会長

■事務局

阿部市長、鈴木画政策部長、小形企画課長、秋葉企画調整担当主査、  
池田主任、上川主任

■傍聴者 0名

■議事日程

開会

- 1 前回要点録の確認
- 2 目指すまちの姿について
- 3 その他

閉会

## 1 開会

出席委員は14名であり、過半数の出席があるため審議会は成立した。

### 【1 前回要点録の確認】

前回要点録（資料32）の確認を行い、修正等なく了承された。

### 【2 目指すまちの姿について】

会長 本日は、「産業・観光」「防災・防犯・都市づくり・住宅・交通」「環境」の3分野について、基本構想の内容として、考え方や文言について、ご質問・ご意見をいただきたい。

#### ○産業・観光分野

事務局より資料34について説明。

委員より多摩市の農業について説明。

委員 補足だが、都市計画法が大きく見直された。生産緑地に関する見方が変わり、都市計画区域内にある農地は開発すべきとされていたが、市街化区域内にある農地は保全を図ることとなった。また、東京都のカロリーベースの食料自給率は1%で、多摩市はそれよりも低いことを認識しておくべきである。多摩市のカロリーベースの食料自給率は出せないか。自給自足や循環型農業という話があるが、現実には都民の食料自給率が1%を切っていることをよく認識したほうがよい。

事務局 「多摩市都市農業振興プラン」の中間見直しを来年度実施予定であり、所管には総合計画審議会からのご意見を伝え、計画見直しに合わせて食料自給率の算定などを検討するよう提案する。

委員 本日配布された目指すまちの姿で考えると、産業についての説明は行数が多くなっているので、ここには他のものも盛り込めないか。そこで1点目に、産業といえば創業支援、中小企業支援が施策として述べられるが、先日税収のところでは話が出たように、多摩市の個人事業主には高齢者も多く、市の税収を支えているという。例えば確定申告・青色申告はノウハウなどのハードルが高いと感じるのでその支援をするなど、市民の働きやすい環境づくりが、広い意味での多摩市の経済的な活力アップにつながるのではないかと。2点目に、農地については地域産業振興以外に「農」を通じたコミュニティや市民活動の促進、つながりの深化などの機能があるため、市民農園を拡大するなどしながら、市民のつながりの拡大を図るなどの記載を入れてはどうか。3点目として、下から5行目の「多くの人が集い、賑わう拠点地区…」は別の話題なので段落を変え、また主語がないので補っていただきたい。そのうえで、現在は「拠点地区についてのにぎわいづくり」についての記述になっているが、ここでは「観光」そのものについて正面から述べる必要があるのではないかと。

事務局 3つ目の、拠点のところの段落分け、観光についてはご指摘のとおりであり修正する。農業については「多摩市都市農業振興プラン」の基本方針のひとつに、市民とともに支

- える都市農業を目指す、とあり、その部分をもう少し書き込むか検討する。都市農地を残すには、土地所有者が農業を続けられる環境づくり、また「農」を市民も支えて触れ合うという2面の取組を進める必要がある。そこがはっきりわかる記述に修正したい。
- 委員 産業の柱に入るかどうかは議論があると思うが、市民が働きやすい環境づくりについて、基本構想のどこかに入れたい。
- 事務局 副業を奨励する企業の増加や、高齢者の生きがいとしての就労など、多様な働き方のニーズが出てきている。多様な働き方を応援することには今までも取り組んできたが、より分かりやすい表現になるよう、ご意見を踏まえて検討したい。
- 委員 内容が多く、文章をパッと見ても整理ができないので、まずは伝えたい内容の要点を箇条書きにするなど、盛り込むべき要素をリストアップし、そのうえで文章化したほうが後々議論しやすいと感じた。地域の産業と活性化の関係は、よりわかりやすく示してもらえればありがたい。
- 会長 策定予定の産業振興計画と整合性を取る必要があるが、そこで市民の働きやすさを含めることもあるかと思う。農地の多面的機能が改めて評価される中、とあるが、ここにはどちらかという土地産地消につながる、農家の土地を保全するための連携が出ている。農地は希少であるために多摩市の子どもには触れる機会がない貴重な資源でもあるので、改めてもう少し積極的に評価していくというようなニュアンスを含めてはどうか。
- 委員 全体的に書き込みすぎているところがあるため、より理念的なところを中心にしてもよいのではないか。
- 事務局 多摩市は、多摩ニュータウンに商業、文化、業務、娯楽等々、多機能複合型都市を目指して進めてきた。例えばこの中でいうと職住近接や市民が働くことを応援していく仕組みづくりなど、獏とはしているがわかりやすいフレーズに改めることを検討したい。
- 委員 高校生が読んでもわかりやすいようにしてほしい。
- 委員 多機能複合型都市という文言ではいろいろな機能が分かれているようなイメージを持った。産業、観光、とある中でも、特に農業は面積が小さく、各農家がそれで生計を立てるといふ機能ではなく、市民がつながるための新たな農業のあり方を考えるなど、少ない農地だが豊かなものとして活用していく。つながりをつくるのが多摩市の得意なところではないか。つながって豊かにしていくというイメージを議論から受けている。また、書き込みすぎないために、1文目に取組の方向性など結論から述べるなど、文の構成を考え直す必要がある。
- 会長 第3期基本計画を見ると目指すまちの姿に当たるところにキャッチフレーズがまず記載されている。
- 委員 文章をわかりやすくすることに同意する。また、「農地の多面的機能が改めて評価される中」とあるが、目にする農地は所有者の高齢化などにより農地として機能していない・作業できない現実がある。梅、栗の生産緑地として機能していない土地をよく見かける。その現実と、子どもの教育的観点や農を通したコミュニケーションなど、市を含めた周りとの接点・理解度がどうなるのか、と思っている。
- 委員 農地所有者の高齢化は課題として認識しており、援農ボランティア制度もあるがスムーズにっていない。都市農業の難しい点としては、常に畑を耕し、草が1本もないよう

な状態を求められる点だが、そういったものとは異なる有機農業でなければ、地球温暖化を防ぐことはできない。都市農業の仕方では何を認めるか、廃業しないようにどのように維持していくかなど、市民も関わり仕組みを考えていく必要がある。

会長 多摩市にとっての多面的な価値と言っても背景がそれぞれ変わってくるので、必ずしも農家にとってだけではなくてくる。その変化を何らかの形で伝える必要が出てくる。書きぶりが盛り込みすぎ、分かりにくい点がある、メッセージを強調したほうがよい、カロリーベースのところなどをどのように反映するかなど、今回出された意見についてご検討いただきたい。

## ○防災・防犯・都市づくり・住宅・交通分野

事務局より資料 36 について説明。

委員 防災・防犯・都市づくりなどの分野だが文章に環境が多く出てくる。環境は別分野ではないのか。

また「ニュータウン開発から 50 年が経過し、「まち」の在り方～」などと鍵かっこ付きでまちを強調しているがこれはどういった意図なのか。ハードとソフトを合わせた意味で使っているのだと想定しているが、どこにもその前提の記載はないので気になる。事前説明資料で道路整備を強調しており、多摩市の遊歩道網などを含めてまちの自慢の一つということはわかるが、公園も市の特徴だと思っている。道路整備という言葉に集約したのは何か理由があるのか。

事務局 漢字の街と「まち」の書き分けについて、市役所の中では街がハードで、ソフトを含めたところで「まち」を使う。確かにその前提の説明は記載していなかったので工夫をさせていただきます。

環境は各分野に入ってくる要素だが、「環境分野」がこの後にある。例えば住環境のようにわかりやすい使い分けができるものは文言を工夫する。また、公園は環境分野に記載している。

委員 27 ページの目指すまちの姿では、どちらかというとなュータウンの地域の話となっている。既存市街地に言及されていないと感じるため、工夫が必要ではないか。

委員 これまでの話の中では一番すんなりとして入ってきた。前段で何が課題かクリアにしているからだと思う。実際に住んでいるからなのか、これが多くの市民の感覚かはわからないが、書いてあるとおりニュータウン開発から 50 年が経ち、これからどうしていくか重要な転換点を迎える中で、目の前にある課題が何かわかりやすく示している。

委員 書き方として、ニュータウンについては、多摩市全体の話と別立ての柱で記載したい。【防災・防犯・都市づくり・住宅・交通】は分野として幅広いため、今の内容では物足りない。場合によっては防災・防犯は分けてもよい。いずれにしても、分量を気にせずまず書くべきことはきちっと書くべき。

ニュータウンについては 15 ページにあるように令和元年度に都市構造の将来像ができている、それについては審議会で議論できないかもしれないが、その都市構造の中でど

のような都市をつくっていくかについて議論すべき。例えば、今後の住宅の建て替えで出てくる空き地などの資源を有効活用し、ニュータウン地域を多摩市全体の都市づくりの戦略的拠点として位置づけることができるのではないか。

ニュータウンの緑は人工のものだが 50 年を経てとても綺麗であり、もっと評価してよい。明治神宮も人工の緑であり、100 年後をめぐしてつくられたといわれる。公園、街路樹などを総合して、長い目に立ったニュータウンの緑について持続的な計画を立て、取り組んでいけないか。

住宅の施策として、「子育て」分野のところで発言した近接居住については、既に市で実施されているようだが今回ここでは触れられていない。世代間でつながりを持って住んでいく家族の近接居住は子育てや福祉などの面で有効であり、子育てなどの課題に総合的に取り組んでいくことを総合計画のなかで見えるようにしたい。

事務局 街路樹については管理計画がある。また、近接居住に対して補助を出しており、住宅マスタープランに基づき取り組んでいる。

会長 今の意見では構想の中に整理するもの、基本計画と分担するものなどがある。緑にしても街路樹の話と公園の話は切り分ける必要がある。

事務局 まず緑は、次の環境分野に入るが、例えば「多摩市街路樹よくなるプラン」、「多摩しみどりと環境基本計画」など総合計画を受けて進める個別計画が既にある。

近居隣居については「多摩市住宅マスタープラン」がある。構想、個別の計画など仕分けは出てくる。

会長 仕分けも含め反映の仕方についてご検討いただきたい。都市づくりではニュータウンの位置づけが重要であるが、既存地域についても考慮する必要がある。

事務局 ご指摘のとおりであるため、市全体の話となるよう、所管課と相談して進めていきたい。

## ○環境分野

委員より地域における活動内容等について説明。

事務局より資料 38 について説明。

委員 農水省ではみどりの食料システム戦略として、2050 年までの農業分野におけるカーボンニュートラルの実現が目標とされており、農業・農地においても環境に配慮した取組が必要だと思っている。

事務局 分野間相互の書きぶりについて重要になるのではないか。

委員 農業は、環境、土地利用、産業として、どちらにも関わる要素で、絡み合っているものだと思っている。

事務局 それぞれの分野は明確に分かれているものではなく、それぞれのすそ野が広く、重なってくる部分は必ずあると考えられる。そのため、重点テーマとして分野をまたがるものを設定したいと思っており、環境も入れたいと思っている。重なる部分を取るのか残す

のかは、全体を見て調整していきたい。

委員 今の取組方針は、各所管課中心の書きぶりになっていると思うので、形式点な面を含めて、全体的な統一性については企画課のほうで調整いただきたい。

事務局 ご指摘のとおりである。また、今回の構想の目指す姿は市民を含めた方針との位置づけであるが、行政職が強くなっている分野もあるため、注意して進めていきたい。

会長 各分野の横並びでの整理をお願いしたい。

委員 要素として、持続可能性は入っているが、サーキュラーエコノミー、生物多様性、カーボンなどはその要素を入れているというのではなく、言葉としても盛り込んだほうが分かりやすいのではないか。

委員 要素としては、将来都市像の成長、安心、循環などの要素が各分野の目指すまちの姿においても、意識してもらえればと考える。

委員 「環境分野」では、生物多様性のことを盛り込みたい。多摩市気候非常事態宣言にもあるように、生物多様性はゼロカーボンとセットと考えると、「目指すまちの姿」の「みどり」と水のネットワークの形成」に関連して述べるなどが良いのではないか。

会長 構想を策定する中で必要な部分についてご意見いただいた。

### 【3 その他】

事務局 次の今後の審議会日程について、ご説明する。

今後の審議会の日程について、次回が1月24日19時から、環境の続きと健康・医療・福祉、市民活動・生涯学習の3分野である旨を説明。

会長 その他、委員から連絡事項等がないようなので、審議会を閉会する。

### 【閉会】

以上